

# 創清会ニュース

創清会事務局  
羽島市  
江吉良町719-1

## 躍進につなげる3期 先を見通し政策選択

創清会ニュースをお届けします。任期満了で行われた羽島市長選挙は、昨年11月に行われ、現職の松井聡市長が、無所属新人2人を大差で破り3期目の当選を果たしました。3期の市長は第2代市長の河村忠一氏以来50年ぶりです。

### 支持層の厚さで勝利

コロナ禍での選挙は、感染防止策をとって行われました。市政は今年11月に新市庁舎が開庁するなど、大きな節目を迎えます。松井市長は市職員時代から市政一筋46年。早速、聖火リレー、新型コロナウイルスワクチン接種の陣頭指揮など、市民の奉仕者として精力的に活動を続けています。「躍進につなげる」。3期目の市政運営に、市民の大きな期待が寄せられています。

市長選は、女性候補を含む無所属新人2人が出馬し、8年ぶりでした。松井氏は、自民、公明、商工会議所、職員労組、各種団体などから厚い推薦・支持を受け安定した戦いを展開しました。2期8年に育んだ国会議員、県議、近隣市町の首長らも応援に駆け付け、幅広い人脈に支えられての選挙戦でした。投票率は43.3%と前々回を8.09%下回る過去最低を記録し、市政への関心度の課題を残しました。

### 見える化を促進

松井市長は3期目の市政運営について「一歩も二歩も先を見通した政策立案と決断実行」を挙げ、「市民と紡ぐポストコロナの新しい未来」をキーワードに掲げます。ごみ処理建設用地決定、市庁舎建設など、過去の行政の停滞のツケに苦しんだ故の結論です。財源が限られる中、正確な情報をいち早く市民に発信し行政の「見える化」を進め、将来の羽島市を見越した施策

の選択をしていく方針を、続行する意気込みです。

### 市民と2人3脚で

コロナ禍のように、

## 松井市長 抱負を語る

松井市長の抱負を聞いた。市長は、市の将来像を明確に示しつつ、優先すべき施策をぶれることなく示した。

3期目はどんな心構えで仕事に臨むか？

「今、すべきこと、今、できること」を念頭に、事業の選択と集中を行っていく。人口減少、少子化、高齢化の中の政策の取捨選択は難しい。常に正確な情報を提供しながら、市民第一の市政を進めていく。

今後の市の発展をどのように展望しているのか。  
「名神高速岐阜羽島インター南部東地区の企業誘致が成功し、開発地域の9割超が埋まった。今後は、県立看護大学東側、北側を開発・誘致区域とし、誘致を促進する。財政難の中で市の役所新庁舎建設は、市民の命を守る防災拠点の意味合いから

何かあるかわからない時代。先を読まない行政の対応が後手に回ってしまうという強い危機感があるからです。「市民と紡ぐ」。市民と一緒にとという気持ちには職員時代から変わりません。羽島市の躍進を目指し、市民との2人3脚は始まっています。

## 抱負を語る

も、市の発展基盤としていく」

「将来像の「心やすらぐ幸せ実感都市はしま」実現には現状分析が欠かせないが。

「1期の『今を変えろ』、2期の『未来を創る』に続き、3期目の目標は『躍進につなげる』とした。市の長年の課題であったインター南部の開発が軌道に乗り、市民の夢だった「躍進の入り口」にようやく立つことができた。

これからの市政の取り組みはとても重要だ。今後、将来像を実現するには財源が限られる中、市民の理解が欠かせない。今まで以上に、的確な情報公開・発信に力を入れていく。市民の同意や知恵

をお借りしながら、政策を進めていきたい」

「5つの柱を掲げている。①いきいき、すこやか施策②学び、確かめ、改める施策③のびのび施策④経済活力施策⑤安全・安心施策」の5つだ。これらを通じて、市民の皆さんに「任んでいてよかった」と実感していただきた。全世代共生の街づくりが私の夢だ。今、世界がコロナ禍の中にある。国、自治体の財政が厳しい中、自治体の力は限られる。ごみ処理もそうだが、県内、近隣自治体と連携をより緊密にして政策課題を解決していきたい」

正しい市政情報は、市広報紙・HP・市議会議事録等で確かめてください。一部に誤った情報の流布や、正確でないデータ等による「誤導」の動きがあります。

# 財政規律が市政の礎

フリーライター 三石 賢 (寄稿)

## 発展は待てど来ぬ

私が自治体の財政に関心を持つきっかけを与えてくれたのは羽島市だった。新幹線駅、名神インターがあるのに市勢発展の兆しが感じられない。なぜだろう？岐阜支局時代、もう30数年前のことだ。

過去5年間の市予算・決算と県内各市の予算などを比べた。当時、公共下水もなく都市基盤整備事業が極めて少なかった。手厚い国の補助事業もほとんどなし。

## 政策は先を見て

市税収入は伸びているのに、将来の街づくりのための布石(道路、公共下水、土地区画整理等)が展望されてなかった。いきおい次年度には余剰財源が出て、半分を財政調整基金に積み立て。その時、先を見据えた事業をし

てればと、今になって思う。

## 健全財政行政の土台

首長が将来を見通して事業と財政を、どうバランスさせていくかは、首長の大事な「資質」と考えるようになった。羽島市の財政は今、厳しい局面にあるのは事実だ。「財政の安定化策」を予算編成の柱に据えたのは正しい判断と言える。

## 停滞は次代にツケ

耐震性に問題のある

市庁舎の新築、次期ごみ処理場建設、市民病院の維持・経営改善。松井市政が掲げる3大事業。先述の2つは、松井市政以前にすでに処理しておきたかった。大きな事業ほど、時間と労力と資金を要する。折悪しく、コロナ禍で税収見通しは厳しい。政策(事業)選択の自由度は狭くなっ

ていることを意味する。

## 財政は弾力性が重要

令和3年度の当初予算資料を見ると、自由に使える一般財源(歳入)の比率は50.6%。平成29年度の61.4%から下降線。市税、地方交付税の減少が主因だ。逆に人件費、扶助費、公債費などの「義務的経費」は上昇カーブを描く。将来の南海トラフ地震、災害にも備えなければならぬ。市の財政は弾力性を失いつつあり、黄色信号が点滅し始めているといっている。

## コロナ後に備えよ

3大事業を抱え、財政を不安定化させずに、将来の街づくりのために「のりしろ」を残すのが「財政の安定化策」。「入るを量りて出ざるを制す」のは大原則。職員の人員削減、給料削減、特別職の給料削減など身を削り、市勢躍進のため布石を

# 2020マニフェスト大賞 — エリア選抜認定 —

地方創生時代における政策提言の向上に資する取り組みを評価され、2020年度第15回マニフェスト大賞エリア選抜〈東海エリア〉に認定されました。この賞は、早稲田大学マニフェスト研究所・毎日新聞社が共催。地方自治体の首長・議会や市民活動団体等を募集・表彰・発表し、政策本位の政治、生活者起点の政策を推進するために設けられています。

2016年度にも、マニフェスト大賞首長部門の優秀賞候補として、全国9人の1人に選出されています。1期目、2期目の節目の年に、その実績を評価されました。松井市長の手堅い行政運営が高く評価されています。



# 新型コロナウイルス ワクチン接種スムーズ

新型コロナのワクチン接種は、5月から始まり、65歳以上の高齢者から優先的に実施しています。市長は時間の許す限り、会場の不二羽島文化センターで市民の案内、動線の進捗状況の点検など陣頭指揮にあたっています。



「市民と紡ぐ」は市長の政治信条であり、問題点は逐次改善していきます。接種は順調に進んでいます。

# 聖火リレー羽島で 世界に「窓」開けて

羽島市で4月3日、東京オリンピックの聖火リレーがありました。岐阜羽島駅から不二羽島文化センターまでを12人のランナーがトーチを片手にリレー。ゴールには市長やサポートランナーの姿が。市はスポーツ振興に力を入れており、スリランカのホストタウンです。「世界に窓を開ける」契機になることが期待されます。

